

## 2号機運開 (3月30日)

### 九州で第二の原子の灯

九州電力株式会社玄海原子力発電所(佐賀県東松浦郡玄海町大字今村)では、2号機の増設工事を行っていたが、去る3月30日に通産省の完工検査を終え営業運転にはいったため、本社にとって、1号機に次いで第2の原子の灯となった。

1号機に隣接して建てられた2号機は、1号機と同型式、同容量(加圧水型軽水炉、出力55万9kw)であり、昭和51年6月の本館基礎掘削工事開始から営業運転まで約4年10ヵ月という長い緊張した工事期間であった。これで玄海原子力発電所の総出力は111万8千kwとなり、九州電力株式会社では、新小倉発電所(4基で総出力151万2千kw)に次ぐ第2番目の大容量の発電所となった。

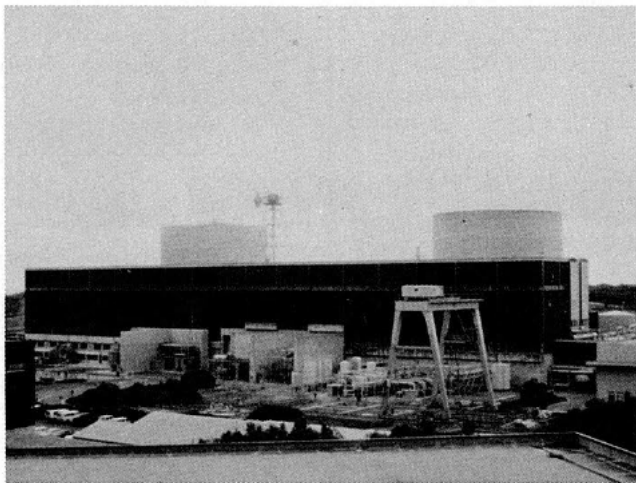
当社は、この増設工事において昭和52年4月に玄海作業所を設置し、その先行工事に当たっていたが、同年11月には玄海建設所と改称し本格的工事体制を整え、三菱重工業株式会社高砂製作所からタービン・発電機据付工事、三菱電機株式会社から電機品据付工事等の二次系全範囲と一次系一部の工事を、また、三菱重工業株式会社神戸造船所から一次系の計装工事をそれぞれ受注し本格的工事を行ってきた。昭和55年5月には

初臨界に達し、徐々に出力をあげ負荷試験を繰り返し、同年6月に初併列以後総合的な試運転が行われ3月30日の営業運転開始に至ったものである。

#### 〔2号機建設のあゆみ概要〕

- 51.1. 原子炉設置許可
6. 本館基礎掘削開始
- 52.2. 原子炉基礎工事開始
4. 当社玄海作業所設置
5. 格納容器建設開始
9. タービン建屋立柱

11. 玄海作業所を建設所に改称
- 53.1. 格納容器耐圧試験完了
8. タービン架台完成
10. 格納容器内機器据付開始
10. タービン据付開始
11. 6.6KV受電開始
- 54.1. 発電機ポールアップ
3. タービン工事中間検査
7. 1次冷却系耐圧試験
9. 温態機能試験
- 55.4. 燃料装荷
5. 初臨界
6. 初併列
- 56.1. 100%負荷到達
3. 営業運転開始



△運開した玄海原子力発電所2号機(左)